

議事要旨

会 議 名	第 3 回 「(仮称)はちおうじ未来デザイン 2040 」懇談会
日 時	令和 3 年(2021年)11月11日(木)午後 7 時 00 分～9 時00分
場 所	学園都市センター 第 5 セミナー室 オンライン(Microsoft Teams)
出 席 者 氏 名	<p>参加者</p> 拓殖大学 教授 新田目 夏実 氏 東京都立大学 教授 市古 太郎 氏 東京都立大学 准教授 杉原 陽子 氏 法政大学 教授 渕元 初姫 氏 明星大学 教授 河合 美香 氏 八王子市町会自治会連合会 副会長 (八王子市町会自治会連合会推薦) 尾寄 敏夫 氏 八王子商工会議所 常議員 (八王子商工会議所推薦) 加藤 正道 氏 NPO 法人八王子子ども劇場 代表理事 (八王子市民活動協議会推薦) 浅野 里恵子 氏 東京工科大学大学事務局学務部 部長 (大学コンソーシアム八王子推薦) 豊嶋 信一 氏 みなみ野小中学校学校運営協議会 代表 荒井 嘉夫 氏 八王子にほんごの会 役員 宮武 茜 氏 八王子障害者団体連絡協議会 代表 杉浦 貢 氏 高尾の森自然学校 代表 梶浦 正人 氏 市民参加者 下村 麻子 氏 市民参加者 小幡 未紀 氏
	<p>事務局</p> 未来デザイン室 室長 今川 邦洋 未来デザイン室 長期ビジョン担当主幹 志村 慶太 未来デザイン室 主査 羽生 勇次 未来デザイン室 主任 小山 清史 未来デザイン室 主任 無藤 一貴
欠 席 者 氏 名	こども食堂ふくろうはうす 代表 (八王子市社会福祉協議会推薦) 細田 明菜 氏
議 題	(1) 長期ビジョン策定の基本的な考え方等について (2) みんなで目指す 2040 年の姿(前半:姿①～⑤)
公開・非公開の別	公開
非 公 開 理 由	—
傍 聴 人 の 数	1 名
配 付 資 料 名	資料1:「第1回及び第2回懇談会における意見一覧」 資料2:「長期ビジョン策定の基本的な考え方等について」 資料3:「みんなで目指す 2040 年の姿(前半:姿①～⑤)」

会議の内容
(1)

次第1 開会

【事務局】

事務局より、当日参加者の確認及び配付資料の確認。

<欠席者:1名>

細田 明菜 氏

<Web参加者:5名>

市古 太郎 氏、淵元 初姫 氏、荒井 嘉夫 氏、下村 麻子 氏、小幡 未紀 氏

<資料>

資料1:第1回及び第2回懇談会における意見一覧

資料2:長期ビジョン策定の基本的な考え方等について

資料3:みんなで目指す2040年の姿(前半:①~⑤)

次第2 第1回及び第2回懇談会議事要旨

第1回及び第2回懇談会議事要旨の公開時期、聴取した意見一覧について事務局より説明。

次第3 議題(1)長期ビジョンの基本的な考え方等について

ア 事務局説明

長期ビジョン策定の基本的な考え方等について事務局より説明。

<事務局説明要旨>

(1)「長期ビジョン」の概要について

「八王子ビジョン2022」は、令和4年度に基本計画の計画期間が終了することから、次期基本計画として「長期ビジョン」を策定し、「みんなで目指す2040年の姿」と今後の取り組むべき施策を示す。「みんなで目指す2040年の姿」は、市民と協働して実現していくものであることから、第1回懇談会で提示した「2040年のあるべき姿」から文言を修正している。

(2) 計画体系の基本的な考え方について

長期ビジョンでは、現行計画の基本構想、都市像実現のための大きな柱を継承する。「みんなで目指す2040年の姿」は市民の暮らしや状態を示すものであり、都市像の「まち」の姿とは差別化している。また、「みんなで目指す2040年の姿」の実現に向け、2030年度までに、重点的、施策横断的に取り組む内容を明確にするため、重点テーマと取組方針を示す。

(3) 計画体系の新旧比較について

現行計画との大きな相違点は、2030年度までの重点的、施策横断的に取り組むべき重点テーマを絞り込み、取組方針を明確に設定する点である。

(4) 策定スケジュールについて

「(仮称)はじおうじ未来デザイン2040」懇談会は、令和3年9月~令和4年3月にかけての実施予定である。素案については、令和4年1月~2月にパブリックコメント手続の実施を予定している。その後、令和4年3月を目途に素案を策定する。令和4年9月~10月に原案のパブリックコメントを実施の上、令和5年4月から「(仮称)はじおうじ未来デザイン2040」をスタートさせる予定である。

<p>会議の内容 (2)</p>	<p>イ 意見交換</p> <p>【高尾の森自然学校代表 梶浦正人 氏】 バックキャストिंगの考え方には同意する。その中で 2040 年のあるべき姿を考える際、世界の共通言語である「SDGs」や「カーボンニュートラル」に真正面から取り組んでいく必要があるのではないか。2040 年の世代は SDGs ネイティブの世代である。八王子市に住み続けたいと思っただけのためには、必要なことではないか。</p> <p>【事務局】 本市では、6 つの都市像実現のための基本計画の49 施策を SDGs と紐づけて整理している。また、次期計画においても同様に整理する予定であり、SDGs に貢献していきたいと考えている。</p> <p>【東京都立大学教授 市古太郎 氏】 都市像実現のためには、市民に加えて、企業や NPO・市民団体の役割が大変重要であり、また現在も大きな役割を果たしている。「協働」における「市民」の定義として、そうした多様な主体を含んでいるという理解でよいか。</p> <p>【事務局】 本冊子においては、企業や大学、市外からの通勤通学者など、「市民」を広義で捉えている。その上で、異なる組織が協働して取り組むことが本市の考える「協働」である。</p> <p>【東京都立大学教授 市古太郎 氏】 冊子作成にあたっては、「市民」についてより踏み込んだ説明を記載いただきたい。</p> <p>【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】 市民活動のモデルとして、「市民・企業・行政のトライアングル」と表現することが多い。この表現のままでもよいが、その場合、説明の加筆を検討いただいた方がよい。</p> <p>【東京都立大学准教授 杉原陽子 氏】 「2040 年のあるべき姿」を検討しているにもかかわらず、2012 年の基本構想を継承していることが気になった。</p> <p>【事務局】 37 中学校区の市民ワークショップを通じて、現行の基本構想で掲げる「つながり」や「協働」の重要性を再確認した。また、2012 年策定当時の社会潮流(人口減少や少子高齢化、IT 化、地球温暖化など)は根本的には現在も変化しておらず、基本構想を継承することとした。</p> <p>【東京都立大学准教授 杉原陽子 氏】 今後の方向性と大きな齟齬がなければよい。</p> <p>【明星大学教授 河合美香 氏】 長期ビジョンにおける「長期」という言葉に違和感がある。社会潮流の変化に対応すべく、適宜計画を見直すべきなのではないか。</p>
------------------------	---

会議の内容
(3)

【事務局】

計画では8年後の目標を定め、計画期間終了後の2030年以降の目標については、その時点で見直すことを想定している。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

2030年までの8年間について、見直しは図らないのか。

【事務局】

実施計画は3年に1回策定しており、毎年ローリングしている。また、長期ビジョンの計画期間は8年間であり、また、決定はしていないが、重点計画は4年ごとに見直す方向で現在調整を図っている。

【八王子市町会自治会連合会副会長 尾寄敏夫 氏】

2012年の基本構想策定時に見込んだ人口や財政状況について、現在の実績値は当時の見込みと大きく乖離していると想定されるが、これらは基本構想を見直すほどの大きな乖離ではない、と結論付けたということか。

また、資料2－別紙2の中で「ふるさと納税アンケート」と記載があるが、どのような内容か。

【事務局】

「八王子ビジョン2022」は2018年に一度改定しているが、その時点の想定人口は57万人であった。一方、令和2年の国勢調査の速報値は約58万人であり、想定とそれほど乖離はなかった。

「ふるさと納税アンケート」については、市外在住の方から見た八王子市の印象や知名度を把握し、意見聴取することを目的として実施している。

【みなみ野小中学校学校運営協議会代表 荒井嘉夫 氏】

「八王子ビジョン2022」の基本構想はバランスよく記載できているが、一方、今回の会で参加者から挙げた疑問は市民から挙がってくることも想定される。本懇談会では今後、理由付けを深めて考える必要がある。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

今回の懇談会では、基本構想を踏襲することを前提として、施策や重点項目の議論をより深めていきたい。

次第3 議題(2)みんなで目指す2040年の姿(前半:姿①～②)

ア 事務局説明

みんなで目指す2040年の姿(前半:姿①～②)について事務局より説明。

<事務局説明要旨>

資料3の3～4ページについて、みんなで目指す2040年の姿(前半:姿①～②)を整理している。

- ① 「人とひと、人と地域など多様なつながりを実感し、ほっとする住みよいまちをみんなでつづっている。」

会議の内容
(4)

②「住み慣れた地域で元気に年を重ね、人生100年時代を生き活きと暮らしている。」
姿①、②について、「背景」や「姿に込めた思い」、「方向性」がそれぞれ反映できているか、過不足はないかについて、御意見をいただきたい。

イ 意見交換

【八王子市町会自治会連合会副会長 尾崎敏夫 氏】

姿①の「姿に込めた思い」や「方向性」にある「リアル」や「バーチャル」という表現に違和感がある。一般市民が理解できる表現に修正した方がよいのではないか。

【東京都立大学准教授 杉原陽子 氏】

姿①の「姿に込めた思い」にある「孤独感」の趣旨は共感するが、表現について、「孤独」は厳密に言えば心理的な問題であることから、行政の介入によって解決することは困難である。「社会的排除を防ぐ」、「社会的孤立を防ぐ」といった表現の方がより適切である。

また、姿①の「方向性」にある「ゆるやかなつながり」の趣旨は大変共感できる。

一方で、将来的な健康問題につながらないよう、姿②には「子どもの頃からの健康づくり」の視点を追加する必要があるのではないか。「幼少期」といった表現を入れてもよい。

【下村麻子 氏】

20代の一市民からすれば、姿①②の用語はある程度感覚的に理解できる。一方、推測に留まるため、同じ概念を共有できているかは不透明である。

また、バーチャルを活用した健康づくり等において行政のサポートが得られるのであれば安心できると感じた。

【法政大学教授 淵元初姫 氏】

姿②の対象は、高齢者に限定されていると感じる。世代ごとに都市像を結び付けるのではなく、全世代に共通した都市像をそれぞれ掲げるべきではないか。「多様な主体」、「多様な世代」の交流の観点を取り入れる方がよい。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

必ずしも世代ごとに都市像が掲げられているわけではないと考えるが、確かにそういった印象を受ける。

【みなみ野小中学校学校運営協議会代表 荒井嘉夫 氏】

淵元先生の意見に同意である。議論を聞いていて、適切な表現は世代ごとに異なると感じた。読み手に想起いただきたい事柄をどの程度まで表現に散りばめられるかが重要である。

また、2040年には高齢者の就業拡大が予想されるが、それに伴い、高齢者がボランティアの中心となる現在の市民協働の在り方も変容すると考えられる。社会潮流の変化も考慮の上、市民協働のあり方の検討を進めるべきである。

【事務局】

姿②の対象者は高齢者に限定しているものではなく、世代間で切れ目のない健康づくりを意図している。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

「切れ目のない」を新たなキーワードとして盛り込んではいかがか。

次第 3 議題(3)みんなで目指す 2040 年の姿(前半:姿③~⑤)

ア 事務局説明

みんなで目指す2040年の姿(前半:姿③~⑤)について事務局より説明。

<事務局説明要旨>

資料3の5~7ページについて、みんなで目指す 2040 年の姿(前半:姿③~⑤)を整理している。

③ 「それぞれの個性を互いに認めあい、それぞれが望むフィールドで活躍している。」

④ 「ワクワク感を持って、「やりたい！」に挑戦でき、笑顔で自分のみちを歩んでいる。」

⑤ 「子どもの幸せをみんなでわかちあい、安心と喜びを持って子育てしている。」

姿③、④、⑤について、「背景」や「姿に込めた思い」、「方向性」がそれぞれ反映できているか、過不足はないかについて、御意見をいただきたい。

イ 意見交換

【八王子障害者団体連絡協議会代表 杉浦貢 氏】

八王子市には古くから障害を持つ方が多く住んでいる。姿③には、先天的な障害者に留まらず、仮に中途障害者になったとしても望む暮らし方や働き方ができる社会を実現するといった観点を追加いただきたい。

また、障害があったとしても悲観的に捉えるのではなく、自分の生活を維持し、前向きに挑戦できるといったニュアンスも追加いただきたい。

【東京都立大学准教授 杉原陽子 氏】

杉浦氏の意見に賛同する。ぜひ文言を追加いただきたい。

姿③の「背景」や「姿に込めた思い」、「方向性」の記載内容は、他の姿と比較して、具体性に欠けているのではないか。「多様性の受入」で意図している対象者層の像が不明確であり、施策検討のためには不十分である。対象者層として、例えば、病気や障害を持っている方、貧困層が考えられるが、明記する必要がある。

また、「バリアフリー」はハード面の整備のみならず、意識醸成が重要である。「ノーマライゼーション」等、意識面におけるバリアフリーを意図した表現が盛り込まれていればよいと考える。

また、就職氷河期世代の対応は喫緊の課題と考えるが、今回の計画では盛り込まれるのか。

【NPO 法人八王子子ども劇場代表理事 浅野里恵子 氏】

AI が席卷する今日において、人間としての成長を育むため、子どもたちにとって、文化芸術などの人間教育が重要と考える。姿④では、そのような観点を盛り込んでいただきたい。

会議の内容
(5)

会議の内容
(6)

【八王子市町会自治会連合会副会長 尾寄敏夫 氏】

姿⑤の「背景」として、核家族化などの世帯構成の変容は重要な観点と考えており、触れていただきたい。

【事務局】

「バリアフリー」はハード・ソフト両面の整備が重要と認識しており、表現は調整したい。

また、就職氷河期世代の対応は、姿④の「方向性」にある「多様な働き方を選択できる環境づくりの推進」に含めて考えていきたい。

【東京都立大学准教授 杉原陽子 氏】

趣旨は理解した。

「ワクワク感」は前向きでよい表現である一方、現実味が乏しく、就職氷河期世代や非正規雇用等、実際に苦しんでいる方々の共感を得にくい表現ではないか。

【事務局】

市民がワクワク感を持って働いている 2040 年の長期的な姿として、また子どもたちにもわかりやすく共感を得られるよう、設定した背景がある。市民ワークショップにおいても、多数挙がった表現であった。

【東京都立大学准教授 杉原陽子 氏】

現実的に「多様な働き方を選択できる」状態以前の問題として、一度失敗したとしても再チャレンジできる環境の整備が重要である。「方向性」にリアリティのある表現を追加いただきたい。

【八王子にほんごの会役員 宮武茜 氏】

市民ワークショップに参加したが、中高生や一般市民は「ワクワク感」等の表現を多用していた。「方向性」で具体的な事柄が示されているのであれば、現状の表現の方がかえって共感を得やすいのではないか。具体性と分かりやすさを両立できるよう、上手く併記する必要がある。

姿③の「方向性」にある「バリアフリー、ユニバーサルデザインのまちづくりの推進」の実現のためには、やさしい日本語など、ユニバーサル言語ツールを普及させる必要がある。

姿⑤の「背景」にある「ヤングケアラー」に関連して、外国人児童・生徒はヤングケアラーになる確率が高く、今後ぜひその対策もお願いしたい。

【高尾の森自然学校代表 梶浦正人 氏】

姿③の「背景」にある「多様性の受入」の中には、ジェンダー平等は含まれているのか。

【事務局】

「多様性の受入」における「多様性」では、性別や年齢、国籍、障害など、様々な属性を想定している。

【東京工科大学大学事務局学務部部長 豊嶋信一 氏】

姿④の記載内容を見て、大学間連携の重要性を再認識した。

議論全体を通して、市民にとってわかりやすくするため、例えば「多様性」等の表現をある程度明確にする必要があると感じた。

今後、ますます環境問題が重要になると考えられるため、今回の計画策定においても触れるべき観点であると感じた。

会議の内容
(7)

【八王子商工会議所常議員 加藤正道 氏】

姿③に、権利擁護の観点を追加すべきではないか。

姿⑤の「方向性」にある「多様な子育て支援」とは経済的支援のみを指すのか。また、「希望に応じた働き方」の実現のため、どのような施策展開を想定しているのか。「遊び場の整備」とは、行政が何かを作っていくということなのか。

【事務局】

「多様な子育て支援」では、経済的な支援に留まらず、場の提供なども想定している。一方で、「希望に応じた働き方」は、表現を見直す必要があると感じた。

「遊び場の整備」では、新たな施設整備や既存施設の維持に加え、民間施設の共有化等も想定している。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

「希望」に応じた働き方は難しい問題であり、パート等で職場復帰することは出産後の女性が必ずしも望む働き方ではない。現状の問題を正当化しないよう留意する必要がある。

【小幡未紀 氏】

去年秋に第一子を出産し、今年から仕事復帰した。保育園の利用料は収入に応じて決まると聞いているものの、非常に高額であると感じている。0歳児から無償になる計画などは検討していないか。育児休暇中の方が今よりも手取りが多く、複雑な心境である。

【事務局】

現在、0歳児からの無償化に係る具体的な計画はない。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

施策単位の話にはなるが、今後の議論で再度取り上げていただきたい。

【明星大学教授 河合美香 氏】

それぞれの姿は、「ワクワク感」等、キャッチーな表現となるよう気を配られていると感じた。

2040年を見据えて、「背景」や「姿に込めた思い」、「方向性」も、それぞれの姿と同程度に尖った表現に意識して作成した方が、市民の理解は進むのではないか。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

今回、「みんなで目指す2040年の姿」を事務局から提案いただいているが、それぞれの姿の背景にある取組内容は、事務局で共通認識があったとしても、我々には認識できず、適切かどうかコメントしづらいという難しさがある。

「多様性」や「調和」、「多文化共生」等の言葉は、みみざわりのよい言葉であるが、もう少し具体性が必要なように感じる。

また、姿③の背景にある「外国人人口の増加」は単に現象を述べているに留まっており、政策的な意思が感じられない。

【東京都立大学准教授 杉原陽子 氏】

理想的な未来を描いた現在のバックキャストिंगの考え方とともに、最悪のケースを想定した「バッドシナリオ」の考え方も取り入れることはできないか。

【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】

「みんなで目指す2040年の姿」を本日議論したが、これは確定か。追加・削除は可能か。

会議の内容 (8)	<p>【事務局】 今回の懇談会やパブリックコメント、市議会の特別委員会等の意見聴取の結果を受けて、調整を検討することはあり得ると考えている。</p> <p>【拓殖大学教授 新田目夏実 氏】 それも踏まえて戦略的に考えると、分かりやすさを重視したものと具体性を重視したものと分けて考える必要があるのではないか。</p> <p><u>次第4 事務連絡</u> 事務局より、事後の意見聴取方法は後日案内すること、第4回懇談会は、12月20日(月)19:00～21:00に学園都市センター第5セミナー室で開催すること、資料に関しては事前配付を予定していることを説明。</p> <p><u>次第5 閉会</u></p> <p>以上</p>
----------------	--